

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200676
法人名	社会福祉法人 亀天会
事業所名	グループホーム 亀天福寿苑
所在地	愛媛県今治市高部字基石山甲661番地1
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 8 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

衛生面・・・ホール内の掃除、消毒、手洗い、うがい、口腔ケアなど徹底して行い、感染予防の勉強会を実施し、快適に過ごせるよう努めている。
レクリエーションの充実・・・季節を反映させた行事を月ごとに実施しており、その他に誕生会やドライブに出かけたりしながら、ゆっくりと個々のペースに合わせたレクリエーションを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近見山裾野に位置する事業所から、しまなみ海道や山々の四季の美しい移り変わりを見渡すことができる。今治市や西条市に多くの福祉施設等を運営する母体法人は、事業所間で連携して利用者一人ひとりの状態に合わせた「ほほえみ」のある暮らしを第一に考えケアを実践している。職員同士で学びの共有を行うユニークな職員教育のシステムがあり、モチベーションを高めている。利用者が暮らし慣れた地域で普通の生活ができるよう、家族の協力を得ながら支援している。利用者一人ひとりのかかりつけ医や協力医とスムーズに連携が取れているほか、事業所には看護師の配置があり、毎日の健康管理を行うとともに緊急時にも迅速に対応することができ、利用者や家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム亀天福寿苑

(ユニット名) 1F たんぽぽ

記入者(管理者)
氏名 藤原 裕子

評価完了日 平成 26 年 7 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 福寿苑の理念を掲げ各階に掲示、確認し実践するように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「かかわる全ての人を笑顔に、人生を豊かに」という法人の理念のほか、「一緒に歩む。”ほほえみ”を大切にします」という事業所独自の理念を開設時に職員全員で話し合い作成している。また、ユニット毎の年間目標を作成している。理念は入職時に説明し、ユニットリーダーを中心に、理念や目標に基づいた日々のケアに繋がるよう努めている。また、理念は六角形をしたおしゃれな事業所のパンフレットにも分かりやすく明記している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の文化展へ利用者様が生活を通して作成された作品の出展、地方祭の見学、散歩など地域の散策における地域住民との交流。趣味の会を毎月開催して、ボランティアの方や家族、地域の方との交流を図っている。</p> <p>(外部評価) 事業所周辺は住宅が少ない立地であるが、エステなどの美容や手打ちうどんづくりに挑戦するなどの「趣味の会」を2か月毎に地域住民の協力を得て開催しており、利用者は会話を楽しみながら交流をしている。散歩時には地域住民と挨拶を交わすことから始め、顔馴染みの関係を築くよう努めており、利用者が一人で歩いている時には近隣住民から事業所に連絡してくれるようになっている。地域の文化祭に利用者が作ったものを出品して見学に行ったり、地域の敬老会などに参加したりするなど、地域との繋がりが広まるよう努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域民生委員会の運営推進会議出席で、施設の現状、支援の方法、認知症の症状とは何かを理解して頂いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 取り組み状況については、写真などを活用して「見える報告」を心がけて、そこから出席者の方たちの意見を汲み上げて、より良いサービス向上へと活かすようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、地域住民、市担当者、他の事業所の職員等の参加を得て開催している。会議を日曜日に開催することにより、多くの家族の参加を得られる工夫をしている。会議では利用者や行事の様子を写真などを使用して分かりやすい報告を行い、意見交換をしている。参加者から出された意見を反映して、地域の文化祭などの行事に参加するようになっている。会議の内容はユニットリーダーが参加できなかった職員に伝達している。	会議を通して地域とのつながりが深められるよう、多角的に参加を呼びかけを行うことを期待したい。また、会議に多くの地域住民の参加を得ることで、事業所の様子を知ってもらい、地域住民の理解と支援を得られる会議となることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者には運営推進会議への出席をして頂き、お互いの情報交換の場として活用し、情報提供、協力関係を築く努力を行っている。	
			(外部評価) 日曜日に運営推進会議を開催しているが、市担当者の参加が得られている。日頃から運営上のことや介護保険の更新の手続きなどで市の窓口に出向き、気軽に相談できる協力関係を築いている。特に地域包括支援センターは身近な存在にあり、よき相談相手として相互の協力関係もできている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間のみ玄関の施錠を行っているが、日中は開錠された状態で、身体拘束についても、スピーチロックを含めた身体拘束0のケアを勉強会の実施も含めて取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束等のマニュアルを整備し、入職時にはOJT手法で指導をしている。毎月開催する勉強会は職員が持ち回りで担当し、具体的な拘束となる行為などを学び、理解して身体拘束をしないケアを実践している。夜間は防犯のため各ユニットと玄関の施錠はしているが、日中ユニット間などを利用者は自由に行き来することができる。また、言葉での拘束をにも気を配り、正しい理解ができるよう事業所全体で取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 不自然な内出血などの早期発見、注意観察を職員全員で意識を持って行っており、常に報告連絡出来るように意識づけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 内部研修、外部研修へ参加する機会を作って、職員にも社内勉強会を通して学ぶ機会を作っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な時間をとり口頭だけでなく、契約書の説明を行っている。契約書はユニット入り口に、掲示し自由に観ていただいております、また疑問点を伺い、不明な点があれば、詳細に納得頂くまで説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱の設置など積極的に意見を広く伺える様になっている。また家族様等が面会に来られる時には、職員が個別に対応させて頂き、意見や要望、希望がないかを伺うように取り組んでいる。	
			(外部評価) 日常生活の中で、利用者から意見や要望を聞いている。利用開始時に重要事項説明書にある苦情等申立先を利用者や家族に説明している。家族の面会時にはユニットリーダーを中心に声をかけ、利用者の様子を報告するなど、家族との信頼関係を深めながら意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。また、玄関には意見箱を設置しているが、ほとんど意見は出されない。家族から物品や設備面での要望が出されることもあり、出された意見は迅速に対応するように努め、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会、ユニット会、リーダー会での議題として、最低でも月に1回以上は話し合う機会が設けられている。そこでの意見を広く取り入れて反映できる環境作りを心がけている。	
			(外部評価) ユニットリーダーや管理者に職員は日頃から気軽に相談することができ、話しやすい雰囲気ができている。管理者は職員の意見や提案を大切に、早期に運営に反映できるよう努めている。職員は毎月目標を立てて管理者等と面接を行っており、法人本部に職員の評価を報告し処遇などに反映されるなど、職員の働き甲斐に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得に向けての援助、環境作りを行っている。また各自が向上心を持って、スキルアップが図れ、目標を達成できるように働ける環境作りを心がけている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内外研修を積極的に取り入れて、月に一度の勉強会を行うことでケアの向上を図り、OJTを通して個々の力量を把握して、統一ケアが図れるように取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市内のグループホーム勉強会に参加して、他の施設との交流機会をつくり、情報交換を行い、サービス向上への礎としている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人様の事前情報を把握し家族様の協力を得ながら、本人様の思いや、希望など、時間をかけての聞き取りや観察を行っている。職員全体で情報の共有化を図り、統一したケアを行い、安心した関係作りを一日でも早く持てるように取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族様の思いや期待等を詳細に伺い、具体的な対応方法などをご家族様との話し合いの中で作り、安心と信頼を得られるように心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 出来るだけ時間を作り、最初に重要視する必要な情報を収集して、どのような支援が必要かを、ディスカッションから導き出す。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ともに寄り添い、本人様と一緒に歩む介護を目指している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病院受診などは家族様の協力を得ている。また本人様の外出、外泊などは、本人様の様子を観察して、家族様にお願いするなど、本人様と家族との絆を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人の方や、友人の方が面会に来られている時には、ゆっくりと時間が過ごせるように、個々のニーズに出来るだけ添えるように、居室の環境を整え、充実した時間を送れるようにしている。 (外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの人や場所を聞いて把握している。日常会話の中で、利用者は昔のことを話すことが多く、家族等に確認して馴染みの関係を把握するよう努めている。新たに把握した内容はケース記録に残し、職員間で共有するよう努めており、事業所での生活でも可能な限り継続できるよう支援している。また、地元の利用者も多く、近隣住民や知人の訪問もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションをメインに、利用者様同士の交流を図れる機会を作ったり、普段の生活の中でも職員が介入することにより少しでも多く、利用者様同士がコミュニケーションを取れる機会を作っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院時には、面会や電話連絡をとり、関係の継続を図っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 1人1人の思いや希望を理解出来るように、普段の生活から意識して取り組んでおり、出来るだけ本人本位の暮らしが出来るように検討している。 (外部評価) 日常生活の中で利用者から思いや意向を聞いて把握している。思いの把握が困難な利用者には、表情や仕草等を観察しながらくみ取ったり、家族等から情報を得たりするなど、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。また、入居時に利用者一人ひとりの生活歴を利用者や家族から聞いて把握し、暮らしぶりを丁寧に記録している。新たな情報はケース記録に記入し、職員間で共有し意見を交換している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 可能な限り本人から聞き取りを行っている。また、ご家族様からの情報収集を行い、共有できるサービス利用の経過等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中から残存能力の把握に努めて、一つ一つどこまでなら能力を生かせるか、色々な方法を試行錯誤しながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご家族様の意向なども交えながら、その人らしい生活を送る為に、ユニットメンバーで月に2回のユニット会を利用して話し合い、介護計画を作成し、その都度見直しもしている。 (外部評価) 利用者や家族等の意向を反映して、ユニット毎に月2回のカンファレンスで日頃の課題などを話し合い、介護支援専門員が介護計画を作成している。ケア行動記録やチェック表等を使用して、毎日の実施記録を詳細に記録しており、根拠あるモニタリングへ繋がっている。また、状態の変化のある場合はその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録の充実を図り、ユニット会などでは利用者様の変化等を話し合い、共有化に努めて、実践や計画の見直しに反映出来るようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 当施設での対応が難しくなった利用者様に対しては、家族様と相談させていただき、同法人内や他施設への移動がスムーズに行える様に支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 趣味の会を毎月開催して、ボランティアの方の協力の元、家族、利用者様とも楽しめるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 各利用者様に、それぞれのかかりつけ医があり、家族対応 で受診し、必要な情報の提供を書類や文面、時には電話対 応にて行っている。相談などあれば適切な病院の紹介も 行っている。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続 して受診することができる。事業所には看護師の配置があ り、日々の健康管理をするほか、協力医と緊急時に迅速に 連絡を取ることができ、利用者は安心感がある。また、受 診内容は家族に聞き、情報を共有しており、各医療機関を はじめ協力医療機関との連携も密で日頃の健康管理にも安 心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師が在中しており、日々の変化、気づきは直ぐに報 告、指示を仰ぐ。夜間帯は電話連絡し指示を仰ぐ、または 状況に応じて、かけつけてくれる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 定期的な訪問、連絡にて情報交換し関係作りに努力してい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した利用者様にはグループホームで出来る範囲の説 明を改めて行い、医療機関との連携、本人、家族にとっ て、より良い方法を話し合い、アドバイスと共に選択して 頂く。 (外部評価) 「重度化及び看取りに関する指針」を作成し、事業所とし て対応できる内容を利用者や家族に説明し、意向を確認し ている。事業所では支援できる目安を利用者の食事摂取と しており、食べれなくなった場合は病院等へ転院しても らっている。利用者の状態に応じて家族や医師等との話し 合いを重ね、事業所で対応できなくなった場合には、法人 内の各施設を紹介する支援もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当、初期対応、看護師による指導、応急対応マニュアルの整備につとめ、全職員が自覚を持って、公務に取り組むよう意識づけしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練、勉強会の実施。緊急連絡網の作成など、マニュアルの随時見直しも行って、歩行困難な利用者様の搬送方法なども含めて学んでいる。また風水害時の訓練も行っている。	
			(外部評価) 年2回消防署の協力を得た防災訓練を実施している。法人全体の災害マニュアルのほかに、事業所独自の災害マニュアルを作成しており、事業所の災害担当者を中心に職員間で課題などを話し合い、必要に応じて見直しをしている。訓練後にも課題を職員間で話し合い、出された意見を次回の訓練で試行する具体的な取組みをしている。事業所の近くに住んでいる職員が多く、災害発生時には職員が駆けつける体制づくりをしている。	運営推進会議の参加者と災害対策について話し合いができていたため、実際に地域住民の協力を得て一緒に訓練が行える取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様への呼びかけに「ちゃん」や「おじいちゃん」「おばあちゃん」などと一般的な呼称で呼びかける事なく利用者様の尊厳を重視した呼びかけを行い、スタッフ間でも注意しあえる環境作りをしている。心のこもった、尊厳した対応を心がけている。	
			(外部評価) 「自分がされて嫌なことは利用者には絶対に行わない」という基本を、職員は意識して支援している。法人として「人間の尊厳やその人らしく生きていこうという思いを大切にすること」を目標に掲げて取り組んでいる。事業所では、利用者の呼び方や慣れからくる口調などの接遇研修を実施して理解しており、気になることは職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 思いが届けにくい利用者様に対しても、じっくりと話を聞く時間を作り、利用者様から伝えられる情報の共有が喜ばしい事である事を伝えていく。そのことが相乗効果となって、更なる思いの伝達を広げて、訴えやすい環境を作っていくよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様に問いかけを行い、その様子を観察し、利用者様の気持ちを汲み取り、希望に沿った時間を過ごして頂く。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 収納に関しては、季節に合わせた衣類を取り出し易い位置に配置し、収納箇所には表記して衣類の収納位置が分かりやすい様にしている。更衣時には、入浴前と同様に利用者様と一緒に選択して、好みの装いをして頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々に合わせた食器類の選択では、出来るだけ利用者様自身で食事を摂れる様に工夫をして提供している。また出来るだけ、プラスチック容器ではなく陶器を主体とした彩と形の豊富な食器類を用意している。下膳に関しては、出来る方には率先して行って頂いている。	
			(外部評価) 法人栄養士が献立を作成し調理された食事が運ばれ、事業所で盛り付けや配膳をしている。ごはんや汁物は事業所で調理し提供しているほか、庭で採れた旬の野菜で和え物を作ったり、おやつ作りをしたりしている。職員と会話をしながら和やかに時間を過ごしている。利用者は配膳の準備や片付け等できることを手伝っている。利用者には手伝ってもらいながら、梅干し作りもしている。また、給食会議があり、事前に利用者の希望などを伝えることができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 誤嚥やむせ込みなどない事を大事にしている。その中で個々の能力に応じた食事の形態をとっている。安心して召し上がって頂けるように、そして摂取しやすいように、極刻みや一口大での提供をする利用者様もいる。お茶は常におかわりし易い様に、食事の際には急須などを利用者様のテーブルに設置している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自発的に口腔ケアをされる利用者様にも、そうでない利用者様に対しても職員が確認をおこない、声掛けして、個々に合わせた口腔ケアの介助、または見守りをしている。また利用者様の口腔状態に合わせた口腔ケアの用品の使い分けを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄チェック表を使用して、利用者様の排泄の状況を把握して、失敗の無いような時間配分で、個別に声を掛けて、場合によっては誘導、介助を行う。その際は、自己の能力を損なわないように心がけた支援を行う。</p> <p>(外部評価) 排泄チェックシートを使用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。、職員は利用者の訴えや表情などを見て、さりげなく誘導を行い、トイレで気持ち良く排泄ができるよう支援している。また、ユニット毎に失禁を防ぐ方法を話し合い、トイレ誘導やパッド等の排泄用品を適切に使用することにより、紙パンツから布パンツへ変更した事例もある。事業所では利用者の負担の軽減や自立に向けた支援に取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 起床時の水分補給や午前、午後の定期的な水分補給。また食事の時の水分補給を定期的に行っている。また水分補給には、ミネラルウォーター、ヨーグルトなど個別に対応するケースもある。運動としては適度な散歩や体操は、決められた時間に毎日行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) プライバシー保護のために、基本的には個別入浴を実施しており、一人一人入浴を時間をかけて、ゆっくりと声かけから脱衣、入浴を一貫してマンツーマンで行っている。また利用者様に合わせて普通浴、特浴、シャワー浴や足浴も実施している。</p> <p>(外部評価) 利用者は週2回以上入浴することができる。各ユニットに個別浴槽があり、四方から介助できる構造となっている。浴槽は広く、気の合う利用者が誘いあって一緒に入浴を楽しむこともできる。特殊浴槽の設置もあり、利用者の状態に合わせて安心安全に入浴することができる。入浴を嫌う利用者には、職員を交代したり声かけやタイミング等を工夫したりするなど、気持ち良く入浴できるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) シーツ交換、布団干し、ベッドの消毒を定期的に取り行っている。また、いつでも入室休憩が出来る状態にしており、居室の換気は常に行っている。また、布団は使いなれた物を使用して頂き、個々に準備して頂いているものもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師による配薬では個別、時間帯別に整理して専用のケースで管理している。服薬時には個別に支援しており、一人一人確認作業をする。また薬の変更時には看護師から申し送り帳を使用して伝達行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた趣味や特技を見出して、個別に楽しむ時間を作る。また回想法を使用して、利用者様の生活歴を探り出し、ニーズを把握するように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所への散歩や苑庭での行事を行って戸外に出れるように努力している。また季節ごとにドライブに出かける企画も行っている。また、普段の共同生活から、利用者様のニーズを掴み、時には家族様に要望を伝えて協力を仰いでいる。	
			(外部評価) 日頃から利用者の希望を聞きながら、散歩やドライブに出かけられるよう支援している。家族の協力を得て、外出を楽しむ利用者も多い。各ユニットのレクリエーション担当者を中心に外出行事を計画し、花見やタオル美術館など普段行けないような場所にも出かけられるよう支援している。車いすの利用者も多くいるが、気兼ねなく外出できるように福祉車両も備え、全職員運転することができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族様に金銭管理は行って頂いており、必要時には家族様に相談して、必要な物があれば用意して頂くようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人様の要望があれば、状況と家族様の了解を得て電話連絡できる体制ではあるが、認知症の為に、慎重に判断させて頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 換気、清掃、消毒の徹底で清潔には気をつけている。毎月、壁面の作成を行い月替わりで装飾している。また利用者様の居室のネームプレートも、季節感のある装飾に入れ替えている。また職員の服装も色による利用者様への影響を学んで考えて工夫したりもしてきている。</p> <p>(外部評価) 季節の飾りつけをしているリビングや廊下は明るく、広々とゆったりした空間となっている。リビングの大きな窓から、しまなみ海道を一望することができ、自然豊かな景色を楽しむことができる。事業所は清潔で清掃が行き届いており、モップ掛けなど利用者ができることを一緒に手伝っている。利用者同士の間関係を察知しながら、希望した場所に座りくつろげるよう配慮している。また、庭で野菜や花などを育てている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間ではテレビや、テーブル席、ソファやローテーブルなどを用意して利用者様が自由に利用できるようにしている。席でくつろがれる利用者様や、窓外を眺めながら、スケッチなどを楽しめる空間もある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) あまり大きなものは持ち込めないが、利用者様が自由にある程度使いなれた物は持ち込めるようにしている。また、生活の中で作成したものや、プレゼント、写真などで飾り付けされる利用者様もいらっしゃる。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドと整理ダンスが備え付けられており、利用者の思い入れがあるものや使い慣れたものを持ち込めるよう声かけをしている。利用者は家族の写真などを持ち込み、居心地良く過ごせるような空間となっている。利用者の安全を考慮し、画鋸の使用は控えてもらっている。利用者の状態に合わせて、居室を使用しやすいようベッドなどのレイアウトを変更している。また、季節毎に家族の協力を得て衣替えを行っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ベッドの位置や、向きなどは、その利用者様に合わせた高さにして提供している。また歩行不安定な方でも安心して歩けるように、手すり、多くの椅子などを配置して、利用者様一人一人に合わせた物が提供できるように観察し、努力している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200676
法人名	社会福祉法人 亀天会
事業所名	グループホーム 亀天福寿苑
所在地	愛媛県今治市高部字基石山甲661-1
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 8 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝、バイタル測定を行い、心身の変化がないか等体調管理に努めています。また、ホール内消毒掃除 手洗い うがい、口腔ケアを行い、感染症を防ぎ、気持ち良く過ごして頂けるように配慮しています。
 本人様の出来ることを見極め、また本人様のペースに合わせ日々の生活の中で残存機能の活用を促しています。
 レクリエーションでは、毎日の体操や散歩、室内での行事を行い日々を楽しんで頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近見山裾野に位置する事業所から、しまなみ海道や山々の四季の美しい移り変わりを見渡すことができる。今治市や西条市に多くの福祉施設等を運営する母体法人は、事業所間で連携して利用者一人ひとりの状態に合わせた「ほほえみ」のある暮らしを第一に考えケアを実践している。職員同士で学びの共有を行うユニークな職員教育のシステムがあり、モチベーションを高めている。利用者が暮らし慣れた地域で普通の生活ができるよう、家族の協力を得ながら支援している。利用者一人ひとりのかかりつけ医や協力医とスムーズに連携が取れているほか、事業所には看護師の配置があり、毎日の健康管理を行うとともに緊急時にも迅速に対応することができ、利用者や家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム亀天福寿苑

(ユニット名) 2F コスモス

記入者(管理者)

氏名 藤原 裕子

評価完了日 平成 26 年 7 月 15 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 福寿苑の理念「一緒に歩む。ほほえみ大切にします。」のもと2階の理念「明るく笑顔のある生活」を事務所に掲示し、職員とコミュニケーションを図り、入居者の方が笑顔で生活が出来るよう実践している。</p> <p>(外部評価) 「かかわる全ての人を笑顔に、人生を豊かに」という法人の理念のほか、「一緒に歩む。ほほえみ」を大切にします」という事業所独自の理念を開設時に職員全員で話し合い作成している。また、ユニット毎の年間目標を作成している。理念は入職時に説明し、ユニットリーダーを中心に、理念や目標に基づいた日々のケアに繋がるよう努めている。また、理念は六角形をしたおしゃれな事業所のパンフレットにも分かりやすく明記している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近くの神社まで散歩に出かけたり、散歩時に地域の方に合えば挨拶している。苑での行事にも参加していただくなど交流しています。今年度は、「趣味の会」を開催しています。</p> <p>(外部評価) 事業所周辺は住宅が少ない立地であるが、エステなどの美容や手打ちうどんづくりに挑戦するなどの「趣味の会」を2か月毎に地域住民の協力を得て開催しており、利用者は会話を楽しみながら交流をしている。散歩時には地域住民と挨拶を交わすことから始め、顔馴染みの関係を築くよう努めており、利用者が一人で歩いている時には近隣住民から事業所に連絡してくれるようになっている。地域の文化祭に利用者が作ったものを出品して見学に行ったり、地域の敬老会などに参加したりするなど、地域との繋がりが広まるよう努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の開催の中で、事業所での行事報告や状況報告を行い、認知症の人に対する理解を深めています。また、面会に来られた時等入居者の状態報告し、気持ちの受け止め方や支援方法等を話すなどしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、行事報告書を活用しながら入居者の状態や活動報告を行い、アルバムを見ながらその時の表情をお伝えしている。ご家族様や高齢介護課職員より意見交換しながらサービスの質の向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、地域住民、市担当者、他の事業所の職員等の参加を得て開催している。会議を日曜日に開催することにより、多くの家族の参加を得られる工夫をしている。会議では利用者や行事の様子を写真などを使用して分かりやすい報告を行い、意見交換をしている。参加者から出された意見を反映して、地域の文化祭などの行事に参加するようになっている。会議の内容はユニットリーダーが参加できなかった職員に伝達している。	会議を通して地域とのつながりが深められるよう、多角的に参加を呼びかけを行うことを期待したい。また、会議に多くの地域住民の参加を得ることで、事業所の様子を知ってもらい、地域住民の理解と支援を得られる会議となることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に出席して頂き、お互いの情報提供を行い困難事例等生じた場合の対応方法など連携し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 日曜日に運営推進会議を開催しているが、市担当者の参加が得られている。日頃から運営上のことや介護保険の更新の手続きなどで市の窓口に出向き、気軽に相談できる協力関係を築いている。特に地域包括支援センターは身近な存在にあり、よき相談相手として相互の協力関係もできている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員1人1人に、身体拘束の禁止を徹底している。玄関の施錠は、夜間のみとし、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援できるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束等のマニュアルを整備し、入職時にはOJT手法で指導をしている。毎月開催する勉強会は職員が持ち回りで担当し、具体的な拘束となる行為などを学び、理解して身体拘束をしないケアを実践している。夜間は防犯のため各ユニットと玄関の施錠はしているが、日中ユニット間などを利用者は自由に行き来することができる。また、言葉での拘束をにも気を配り、正しい理解ができるよう事業所全体で取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 入浴や更衣時等に入居者の身体に不自然な傷や、あざが無いか等の確認を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、制度を必要とする入居者はいないが内部・外部の研修会があるごとに、職員が参加し、1人1人が、制度に関する理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時や改定等の際は、十分な説明を行い、不安な点や疑問点にも納得いく説明をおこなっている。 また 契約書はユニット入り口に掲示し、いつでも観られるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議の開催の他、面会時などご意見やご要望を頂くように努めており、また、玄関先にこ意見箱を設置し意見・要望などあれば、職員全員で検討している。	
			(外部評価) 日常生活の中で、利用者から意見や要望を聞いている。利用開始時に重要事項説明書にある苦情等申立先を利用者や家族に説明している。家族の面会時にはユニットリーダーを中心に声をかけ、利用者の様子を報告するなど、家族との信頼関係を深めながら意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。また、玄関には意見箱を設置しているが、ほとんど意見は出されない。家族から物品や設備面での要望が出されることもあり、出された意見は迅速に対応するように努め、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 毎月2回、リーダー会、各ユニット会を開催し、職員の見 意見や提案を聞き、毎月1回の職員会で、話し合いを重ね反映 できるようにしている。	
			(外部評価) ユニットリーダーや管理者に職員は日頃から気軽に相談す ることができ、話しやすい雰囲気ができている。管理者は 職員の見意見や提案を大切に、早期に運営に反映できる よう努めている。職員は毎月目標を立てて管理者等と面接 を行っており、法人本部に職員の評価を報告し処遇などに 反映されるなど、職員の働き甲斐に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 職員の心身や家庭環境等を考慮しながら、勤務表作成を行 い、仕事に集中できる体制を作っている。 また、資格取得向けの援助も行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修を受ける機会を作っており、職員1人1人が学べ るようになってきている。また、内部研修の機会を設け職員 の質の向上を図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修や行事等で他事業所の方々と交流を図っている。 また、今年度より今治市グループホーム協会へ入会し 他 施設の方々と交流する機会を設けている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用を開始する場合には、十分なコミュニケー ションを図り、不安な事や要望等に耳を傾け、信頼関係が 築けるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の不安事や要望等些細な事でも、話しを聞き、相談に乗り、任せて頂けるように信頼関係づくりに努めている。また、初期面接だけでなく、その後も話して頂けるような雰囲気づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様の状況やご家族様とのコミュニケーションをしっかりと図り、その時に必要としている支援が出来るように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人で出来ることは、して頂いたり、また、毎日の生活の中で一緒に笑ったり、怒ったり、悲しんだり入居者の感情を大切にしながら信頼関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事への参加、病院受診、衣替え等を、本人様とご家族が一緒にして頂ける時間を設けています。また、面会時には入居者の状況等をお伝えし、情報の共有や相談に乗り、共に本人様を支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人の面会などには、気兼ねなく話しができるようにゆっくりと過ごせる場所を提供している。 また、ご家族様と一緒に馴染みの理・美容院へ出かけるなどの外出も楽しまれている。 (外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの人や場所を聞いて把握している。日常会話の中で、利用者は昔のことを話すことが多く、家族等に確認して馴染みの関係を把握するよう努めている。新たに把握した内容はケース記録に残し、職員間で共有するよう努めており、事業所での生活でも可能な限り継続できるよう支援している。また、地元の利用者も多く、近隣住民や知人の訪問もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 行事、レクリエーション、食事等ホールで過ごされている時の入居者同士の会話や関わりを大切に支え合えるように支援している。居室へこもりがちの方にも声掛けをこまめに行い、ホールで過ごして頂けるよう支援し、職員と一緒に仲間づくりに取り組んでいる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居される方にも途切れないよう相談援助が引き続き行える事を説明している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者1人1人の思いや意向を日々の会話から聞き取り状況を把握するように努めている。集団生活である為すべてを受け入れることは難しいが、その都度説明を行い出来る限り希望が叶うように支援している。	
			(外部評価) 日常生活の中で利用者から思いや意向を聞いて把握している。思いの把握が困難な利用者には、表情や仕草等を観察しながらくみ取ったり、家族等から情報を得たりするなど、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。また、入居時に利用者一人ひとりの生活歴を利用者や家族から聞いて把握し、暮らしぶりを丁寧に記録している。新たな情報はケース記録に記入し、職員間で共有し意見を交換している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前の面接時に本人様・ご家族様が利用されているサービス業者から生活歴等の様子を伺い、入居後は話し合いの中からしっかりと捉え、暮らし方の把握や考え方など知る機会を多く持つよう取り組んでいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日、バイタル測定を行い、体の異常の早期発見や日常的な行為・表情・発言から考えや、希望を汲み取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人様・ご家族様の要望を聞き取りながら、チームで評価し、アセスメントでケアの見直しを行い、実施可能な介護計画を作成するように努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族等の意向を反映して、ユニット毎に月2回のカンファレンスで日頃の課題などを話し合い、介護支援専門員が介護計画を作成している。ケア行動記録やチェック表等を使用して、毎日の実施記録を詳細に記録しており、根拠あるモニタリングへ繋がっている。また、状態の変化のある場合はその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 本人様が発した言葉や行動等を個別に記録し、職員間で情報を共有しながら実践している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 対応が困難な入居者に対しては、ご家族様と相談しご家族様の自宅周辺の他施設への移動がスムーズに行えるように支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域ボランティアのコーラス会や、小物作りなどを行い、ご家族様と入居者と共に楽しむ事が出来る活動を支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 利用以前のかかりつけ医がある場合は、継続して頂いてい ます。相談を受ければ協力医療機関の受診支援を行えるよ うに努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続 して受診することができる。事業所には看護師の配置があ り、日々の健康管理をするほか、協力医と緊急時に迅速に 連絡を取ることができ、利用者は安心感がある。また、受 診内容は家族に聞き、情報を共有しており、各医療機関を はじめ協力医療機関との連携も密で日頃の健康管理にも安 心感がある。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日々の関わりの中で観察やバイタル測定により異常の早期 発見に心がけ看護師への報告・連絡・相談を行い適切な介 護、受診を受けられるように努めている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には、情報提供等を、医療機関に持参し入院計画や 治療計画をご家族様に連絡して頂いている。退院予定日 には受け入れが出来るよう詳細を伺っている。退院後の受診 には苑での様子・経過を連絡している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居契約時に看取りの指針に沿って、ステージの説明と事 業所で出来ることを十分に説明し、同意を得ている。 本人様・ご家族の意向を尊重し、地域の関係者と共に取組 んでいる。</p> <p>(外部評価) 「重度化及び看取りに関する指針」を作成し、事業所とし て対応できる内容を利用者や家族に説明し、意向を確認し ている。事業所では支援できる目安を利用者の食事摂取と してしており、食べれなくなった場合は病院等へ転院して もらっている。利用者の状態に応じて家族や医師等との話 し合いを重ね、事業所で対応できなくなった場合には、法人 内の各施設を紹介する支援もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時等の対応についてはマニュアル化しており、それにより対応している。また、急変時には看護師・管理者に連絡を取り対応している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練の実施、緊急連絡網を作成している。また、災害マニュアルを作成し、避難場所を掲示しどこに避難すればよいかを周知している。	
			(外部評価) 年2回消防署の協力を得た防災訓練を実施している。法人全体の災害マニュアルのほかに、事業所独自の災害マニュアルを作成しており、事業所の災害担当者を中心に職員間で課題などを話し合い、必要に応じて見直しをしている。訓練後にも課題を職員間で話し合い、出された意見を次回の訓練で試行する具体的な取組みをしている。事業所の近くに住んでいる職員が多く、災害発生時には職員が駆けつける体制づくりをしている。	運営推進会議の参加者と災害対策について話し合いができていたため、実際に地域住民の協力を得て一緒に訓練が行える取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者が居室への出入りの際には職員が声掛け、確認を行い入室をしている。更衣時等は居室のドアは必ず閉めるなど、プライバシーを損なわないように配慮し声掛けには、言葉づかいに気を付けている。	
			(外部評価) 「自分がされて嫌なことは利用者には絶対に行わない」という基本を、職員は意識して支援している。法人として「人間の尊厳やその人らしく生きていこう」という思いを大切にすること」を目標に掲げて取り組んでいる。事業所では、利用者の呼び方や慣れからくる口調などの接遇研修を実施して理解しており、気になることは職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者の方の意思表示を汲み取っている。外出希望があれば、苑外散歩、他のユニットとの交流するなどのリフレッシュを図ったり、ご家族様との外出の機会を伺ったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人様のペースを大切にし、誘導時や本人様が拒否をされたり、気持ちが乗らない時は、時間を置き対応を行っている。また、希望があれば、職員の業務の順序や配置を変更し対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣時等は衣類を本人様に選んで頂いる。その際には、季節感や色合いに配慮している。整容時には、洗面所前には椅子を置き誰でも、ゆっくりと整容出来るように工夫している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員から声掛けをし、希望される方は簡単な調理、片付けなど行っている。施設の園庭では野菜作りを行っており一人ひとりで野菜の収穫したり、施設周辺に、生えてある、ふきや野イチゴを摘みに行くこともあります。室内には献立ボードを設置し、食事を楽しみにして頂けるように工夫をしている。 (外部評価) 法人栄養士が献立を作成し調理された食事が運ばれ、事業所で盛り付けや配膳をしている。ごはんや汁物は事業所で調理し提供しているほか、庭で採れた旬の野菜で和え物を作ったり、おやつ作りをしたりしている。職員と会話をしながら和やかに時間を過ごしている。利用者は配膳の準備や片付け等できることを手伝っている。利用者には手伝ってもらいながら、梅干し作りもしている。また、給食会議があり、事前に利用者の希望などを伝えることができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量を毎食記録し、食事量・水分量などの状態を把握している。希望があれば、水筒・急須などに飲み物を入れ本人様に渡している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に歯磨きやうがいを行っています。歯磨きの方や液体での歯磨き等本人様に合わせての口腔ケアを行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 現在、全員がトイレにて排泄が出来ている状態です。排泄チェック表に排泄状況を記入に排泄のパターンが把握できるように努めている。	
			(外部評価) 排泄チェックシートを使用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。、職員は利用者の訴えや表情などを見て、さりげなく誘導を行い、トイレで気持ち良く排泄ができるよう支援している。また、ユニット毎に失禁を防ぐ方法を話し合い、トイレ誘導やパッド等の排泄用品を適切に使用することにより、紙パンツから布パンツへ変更した事例もある。事業所では利用者の負担の軽減や自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝、ラジオ体操や散歩等を行い運動不足にならないように努めている。食事面では、バランスよく食べて頂くよう声掛けし、水分も摂って頂くよう努めている。時間をかけて便座に座って頂くなど体を動かすことで改善できるように取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は週2回行っているが、入浴するか、しないかは本人様の意思を尊重している。入浴時は必ず職員が付き添い見守りし、事故防止に努めている。	
			(外部評価) 利用者は週2回以上入浴することができる。各ユニットに個別浴槽があり、四方から介助できる構造となっている。浴槽は広く、気の合う利用者が誘いあって一緒に入浴を楽しむこともできる。特殊浴槽の設置もあり、利用者の状態に合わせて安心安全に入浴することができる。入浴を嫌う利用者には、職員を交代したり声かけやタイミング等を工夫したりするなど、気持ち良く入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間帯では、21時頃まで自由に過ごして頂いています。が、不眠傾向の折には職員が本人様休息したくなるまで共有している。また、日勤帯でも本人様が休息を取りたいときは自由に居室で休息している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬管理は、看護師によって行っていますが、職員全員で薬の目的や副作用、用量については理解するように努めている。また、服用時には見守りや介助を行っている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーションやドライブ等様々な行事を行い気分転換を図って頂いている。また、日常生活の中で少しでも「できる」という気持ちを持って頂くよう支援している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 自然に恵まれた場所にあり、自然を満喫しながら日常的に散歩を楽しんでいる。また、ご家族様に本人様の希望を伝え、協力しながら外出することもある。	
			(外部評価) 日頃から利用者の希望を聞きながら、散歩やドライブに出かけられるよう支援している。家族の協力を得て、外出を楽しむ利用者も多い。各ユニットのレクリエーション担当者を中心に外出行事を計画し、花見やタオル美術館など普段行けないような場所にも出かけられるよう支援している。車いすの利用者も多くいるが、気兼ねなく外出できるように福祉車両も備え、全職員運転することができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族様と一緒に外出するときや苑での行事で出かけた時など、買い物ができるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 外からの電話や手紙は入居者に届くようにしている。本人様が電話を掛けたい時は支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 冷暖房による温度管理と電気による明るさを調整したり日中はBGMとして音楽を流している。利用者と一緒に作った作品を、壁面に月ごとで張り替えたり、散歩等で採ってきた草花を飾り季節感を満喫している。</p> <p>(外部評価) 季節の飾りつけをしているリビングや廊下は明るく、広々とゆったりした空間となっている。リビングの大きな窓から、しまなみ海道を一望することができ、自然豊かな景色を楽しむことができる。事業所は清潔で清掃が行き届いており、モップ掛けなど利用者ができることを一緒に手伝っている。利用者同士の人間関係を察知しながら、希望した場所に座りくつろげるよう配慮している。また、庭で野菜や花などを育てている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファやテーブルに入居者の方が集まれるようにしています。1人用のテーブルも用意しています。椅子は自由に動かし好きな場所で過ごせるよう配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 備え付けのベッドやクローゼットはあるが、以前より使い慣れている家具や置物等持参して頂けるよう説明し、居室に飾り本人様が居心地良く過ごして頂けるように配慮している。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドと整理ダンスが備え付けられており、利用者の思い入れがあるものや使い慣れたものを持ち込めるよう声かけをしている。利用者は家族の写真などを持ち込み、居心地良く過ごせるような空間となっている。利用者の安全を考慮し、画鋲の使用は控えてもらっている。利用者の状態に合わせて、居室を使用しやすいようベッドなどのレイアウトを変更している。また、季節毎に家族の協力を得て衣替えを行っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレやフロアには手すりを設置しています。また、ご自分の居室がわかるようにプレートや目印をつけるなどし、楽しんでいる。自分で出来る居室の片付け、掃除等は職員と一緒にいたり、「できること」「わかること」は自身で行い、出来る範囲で自立した生活が送れるように工夫している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200676
法人名	社会福祉法人 亀天会
事業所名	グループホーム 亀天福寿苑
所在地	愛媛県今治市高部字基石山甲661番地1
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 8 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

レクでは、本人の興味あることを見極め、個々のペースに合わせて楽しく過ごしていただけるよう、ゲームや回想法を取り入れる等レクの充実に取り組んでいる。介護予防においては、生活リハを主に残存機能の維持に努め、日々の活性化を図っている。衛生面では手洗い、口腔ケアの徹底、ホール内の掃除・消毒に努め、感染症の予防に努め、快適に生活が送れるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近見山裾野に位置する事業所から、しまなみ海道や山々の四季の美しい移り変わりを見渡すことができる。今治市や西条市に多くの福祉施設等を運営する母体法人は、事業所間で連携して利用者一人ひとりの状態に合わせた「ほほえみ」のある暮らしを第一に考えケアを実践している。職員同士で学びの共有を行うユニークな職員教育のシステムがあり、モチベーションを高めている。利用者が暮らし慣れた地域で普通の生活ができるよう、家族の協力を得ながら支援している。利用者一人ひとりのかかりつけ医や協力医とスムーズに連携が取れているほか、事業所には看護師の配置があり、毎日の健康管理を行うとともに緊急時にも迅速に対応することができ、利用者や家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 亀天福寿苑

(ユニット名) 3 F ひまわり

記入者(管理者)

氏名 藤原 裕子

評価完了日

平成 26 年 7 月 15 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 福寿苑の理念を各階に提示(廊下、詰所の壁)しており、職員が一人一人常に意識し、正しいケアの実践につながるよう努力している。</p> <p>(外部評価) 「かかわる全ての人を笑顔に、人生を豊かに」という法人の理念のほか、「一緒に歩む。”ほほえみ”を大切にします」という事業所独自の理念を開設時に職員全員で話し合い作成している。また、ユニット毎の年間目標を作成している。理念は入職時に説明し、ユニットリーダーを中心に、理念や目標に基づいた日々のケアに繋がるよう努めている。また、理念は六角形をしたおしゃれな事業所のパンフレットにも分かりやすく明記している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 苑の行事(夏祭り等)への招待や家族と一緒に梨狩りに出かけ交流を図っている。また、地域の文化祭への作品出展や地方祭に出掛けたりしながら地域の方々との触れ合いを大切にしている。</p> <p>(外部評価) 事業所周辺は住宅が少ない立地であるが、エステなどの美容や手打ちうどんづくりに挑戦するなどの「趣味の会」を2か月毎に地域住民の協力を得て開催しており、利用者は会話を楽しみながら交流をしている。散歩時には地域住民と挨拶を交わすことから始め、顔馴染みの関係を築くよう努めており、利用者が一人で歩いている時には近隣住民から事業所に連絡してくれるようになっていく。地域の文化祭に利用者が作ったものを出品して見学に行ったり、地域の敬老会などに参加したりするなど、地域との繋がりが広まるよう努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会に自治会長、民生委員の出席で施設の現状、認知症の理解をしていただく。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、評価への取り組みや結果の報告を行い、意見交換をすることによってサービスの向上に取り組む努力を行っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、地域住民、市担当者、他の事業所の職員等の参加を得て開催している。会議を日曜日に開催することにより、多くの家族の参加を得られる工夫をしている。会議では利用者や行事の様子を写真などを使用して分かりやすい報告を行い、意見交換をしている。参加者から出された意見を反映して、地域の文化祭などの行事に参加するようになっている。会議の内容はユニットリーダーが参加できなかった職員に伝達している。</p>	<p>会議を通して地域とのつながりが深められるよう、多角的に参加を呼びかけを行うことを期待したい。また、会議に多くの地域住民の参加を得ることで、事業所の様子を知ってもらい、地域住民の理解と支援を得られる会議となることを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市担当者に運営推進会議に出席をして頂き、情報提供などのアドバイスを受け協力関係を築く努力を行っている。</p> <p>(外部評価) 日曜日に運営推進会議を開催しているが、市担当者の参加が得られている。日頃から運営上のことや介護保険の更新の手続きなどで市の窓口に出向き、気軽に相談できる協力関係を築いている。特に地域包括支援センターは身近な存在にあり、よき相談相手として相互の協力関係もできている。</p>	<p>会議を通して地域とのつながりが深められるよう、多角的に参加を呼びかけを行うことを期待したい。また、会議に多くの地域住民の参加を得ることで、事業所の様子を知ってもらい、地域住民の理解と支援を得られる会議となることを期待したい。</p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 拘束はしないという事を常に念頭において、研修に参加、又苑内での勉強会も実施し周知徹底を図っている。ベッド柵は3本までとし、超低床ベッドを使用している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束等のマニュアルを整備し、入職時にはOJT手法で指導をしている。毎月開催する勉強会は職員が持ち回りで担当し、具体的な拘束となる行為などを学び、理解して身体拘束をしないケアを実践している。夜間は防犯のため各ユニットと玄関の施錠はしているが、日中ユニット間などを利用者は自由に行き来することができる。また、言葉での拘束をにも気を配り、正しい理解ができるよう事業所全体で取り組んでいる。</p>	<p>会議を通して地域とのつながりが深められるよう、多角的に参加を呼びかけを行うことを期待したい。また、会議に多くの地域住民の参加を得ることで、事業所の様子を知ってもらい、地域住民の理解と支援を得られる会議となることを期待したい。</p>

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 入浴や着替え時、皮膚の状態を観察し、小さな傷や内出血の早期発見に努め、ユニット会や朝礼等で話し合いの場を持ち対応を検討している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会への参加やユニット会、勉強会で報告し個々の必要性を学んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な時間を取り、説明を行い、疑問点にも理解していただけるようにしている。また、ユニット入り口に、契約書を掲示し、自由に観る事が、できるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置し、要望、苦情に速やかに取り組むようにしている。	
			(外部評価) 日常生活の中で、利用者から意見や要望を聞いている。利用開始時に重要事項説明書にある苦情等申立先を利用者や家族に説明している。家族の面会時にはユニットリーダーを中心に声をかけ、利用者の様子を報告するなど、家族との信頼関係を深めながら意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。また、玄関には意見箱を設置しているが、ほとんど意見は出されない。家族から物品や設備面での要望が出されることもあり、出された意見は迅速に対応するように努め、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月職員会、月2回ユニット会、リーダー会を開催し率直な意見を求める機会を設け反映させている。</p> <p>(外部評価) ユニットリーダーや管理者に職員は日頃から気軽に相談することができ、話しやすい雰囲気ができている。管理者は職員の意見や提案を大切に、早期に運営に反映できるよう努めている。職員は毎月目標を立てて管理者等と面接を行っており、法人本部に職員の評価を報告し処遇などに反映されるなど、職員の働き甲斐に繋がっている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) ユニット会、リーダー会に出席をし、職員の意見や要望を把握して、職員にとってより良い環境作りに努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内外の研修に参加し、学んだことを発表することで、自他共に勉強している(職員会時、テーマを決めて発表)。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 今治市グループホーム交流会に参加したりケアハウス G・H・特養施設など訪問し、意見交換や勉強会に参加しサービスの質を向上に取り組んでいる。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 傾聴を第一に利用者とのコミュニケーションを十分にとり、より添って信頼関係を築く。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) しっかりと傾聴し、話しやすい雰囲気づくりを心掛け、信 頼関係を築く。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 細かな所まで意見、要望に耳を傾け、お互いに話し合い希 望に添えるよう努力する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 出来る事、出来ない事を見極め残存機能の持続活用を目指 す。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 衣替え、受診、外出など家族の協力を得ながら本人との良 好な関係がつかれるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 子や孫、友人の面会時、ゆっくりと気兼ねなく交流出来る 場の提供。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの人や場所を聞いて把握 している。日常会話の中で、利用者は昔のことを話すこと が多く、家族等に確認して馴染みの関係を把握するよう努 めている。新たに把握した内容はケース記録に残し、職員 間で共有するよう努めており、事業所での生活でも可能な 限り継続できるよう支援している。また、地元の利用者も 多く、近隣住民や知人の訪問もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 言葉が通じにくかったり、理解困難な場面では、トラブルになることもあるが、職員が仲介役となり仲間作りに取り組んでいる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 電話や訪問で様子を伺ったり、必要な情報提供をし、他施設に移った後も、面会に行き本人の経過をフォローすることに努めている。退居された方から感謝の言葉がいただけることもある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のコミュニケーションをしっかりととり、何気ない会話の中からくみ取るよう努めていたり、小さな気付きを大切に取り組んでいる。 (外部評価) 日常生活の中で利用者から思いや意向を聞いて把握している。思いの把握が困難な利用者には、表情や仕草等を観察しながらくみ取ったり、家族等から情報を得たりするなど、利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。また、入居時に利用者一人ひとりの生活歴を利用者や家族から聞いて把握し、暮らしぶりを丁寧に記録している。新たな情報はケース記録に記入し、職員間で共有し意見を交換している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 回想法を交えながら本人の話せる範囲で話を聞き把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 過剰介護にならないよう、本人の機能を見極め、手は出し過ぎず、目は離さずを心掛け、考えや希望をくみとれるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族、本人の希望も聞きながらチームで意見を出し合い実施可能な計画作りをしている。	
			(外部評価) 利用者や家族等の意向を反映して、ユニット毎に月2回のカンファレンスで日頃の課題などを話し合い、介護支援専門員が介護計画を作成している。ケア行動記録やチェック表等を使用して、毎日の実施記録を詳細に記録しており、根拠あるモニタリングへ繋がっている。また、状態の変化のある場合はその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) その人の様子がわかる記録をするよう、会話の内容、表情、思いをくみ取りながら、小さな気づきを大切に話し合い、介護計画に生かすよう努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 状況の変化に伴い、他施設への紹介や、移動などがスムーズに出来るよう配慮している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの協力を得ながら、小物づくり、コーラス会等楽しんでいただけるよう支援する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 各利用者それぞれのかかりつけ医を家族様対応で受診。希 望あれば嘱託医の紹介や適切な病院の紹介をしている。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続 して受診することができる。事業所には看護師の配置があ り、日々の健康管理をするほか、協力医と緊急時に迅速に 連絡を取ることができ、利用者は安心感がある。また、受 診内容は家族に聞き、情報を共有しており、各医療機関を はじめ協力医療機関との連携も密で日頃の健康管理にも安 心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々のバイタルは暮らしの状況表に記入している。日中 の変化は看護師にすぐに連絡し、夜間は電話で報告、指示を 仰ぐ体制が出来ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 情報提供書や電話連絡にて関係作りは出来ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に看取りの指針についての説明をしている。医療が 必要になった時点で家族様と十分に話し合いを行い、施設 で出来る範囲を説明し、本人様・ご家族様にとって一番良 い方法を選択してもらったりアドバイスを行っている。 (外部評価) 「重度化及び看取りに関する指針」を作成し、事業所とし て対応できる内容を利用者や家族に説明し、意向を確認し ている。事業所では支援できる目安を利用者の食事摂取と しており、食べれなくなった場合は病院等へ転院しても らっている。利用者の状態に応じて家族や医師等との話し 合いを重ね、事業所で対応できなくなった場合には、法人 内の各施設を紹介する支援もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルに記載されていることを確認しながら、各自が自覚し取り組むよう意識づけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練(火災、地震、土砂崩れ)、緊急連絡網の作成、避難困難な車椅子、歩行不安定者を1Fにするよう利用者の居室移動も行っている。	
			(外部評価) 年2回消防署の協力を得た防災訓練を実施している。法人全体の災害マニュアルのほかに、事業所独自の災害マニュアルを作成しており、事業所の災害担当者を中心に職員間で課題などを話し合い、必要に応じて見直しをしている。訓練後にも課題を職員間で話し合い、出された意見を次回の訓練で試行する具体的な取組みをしている。事業所の近くに住んでいる職員が多く、災害発生時には職員が駆けつける体制づくりをしている。	運営推進会議の参加者と災害対策について話し合いができていたため、実際に地域住民の協力を得て一緒に訓練が行える取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の大先輩としての尊敬の念を持って、丁寧な言葉遣いで接している。入浴は、基本 一人入浴し、トイレ 介助時はカーテン、戸を閉める等、職員が注意しながら取り組んでいる。	
			(外部評価) 「自分がされて嫌なことは利用者には絶対に行わない」という基本を、職員は意識して支援している。法人として「人間の尊厳やその人らしく生きていこう」という思いを大切にすること」を目標に掲げて取り組んでいる。事業所では、利用者の呼び方や慣れからくる口調などの接遇研修を実施して理解しており、気になることは職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ゆっくりとした対応を心掛け、何気ない会話の中から、思いを汲みとったり、話しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なかなか理想通りにはいかないが、個々のペースに合わせて散歩に出掛けたり、野菜作りをしたり、好みのレクを取り入れたりと希望にそえるよう努力をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で服を選んでもらったり、クローゼットの片づけを定期的に行い、取り出しやすいようにしたり、家族様の協力を得て季節毎の入れ替えを行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の下ごしらえや片づけが出来るよう支援したり、ゆっくりと食事が出来る雰囲気作り、盛り付けの工夫などを行い、見た目も美味しく、楽しい食事が出来るよう配慮している。会話の中から好みを汲み取り反映している。 (外部評価) 法人栄養士が献立を作成し調理された食事が運ばれ、事業所で盛り付けや配膳をしている。ごはんや汁物は事業所で調理し提供しているほか、庭で採れた旬の野菜で和え物を作ったり、おやつ作りをしたりしている。職員と会話を楽しみながら和やかに時間を過ごしている。利用者は配膳の準備や片付け等できることを手伝っている。利用者を手伝ってもらいながら、梅干し作りもしている。また、給食会議があり、事前に利用者の希望などを伝えることができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量チェックは毎回実施。残食についてはすすめてみるが、無理強いはいしない。歯の状態により、キザミ軟飯の提供。配膳された水分は全部飲んでいただくよう声掛けし、おかわりも出来るよう急須をテーブルに置いておく。午前、午後、入浴後の水分補給実施している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、洗面所にて歯磨き、うがいの声掛け、見守り一部介助で行うのが習慣となっている。立位が安定していない人には椅子を用意するなどしている。コップ、歯ブラシは週一回消毒している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表に沿ってのトイレ誘導や、声掛けにて排泄の失敗を少なくするよう努力している。	
			(外部評価) 排泄チェックシートを使用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。、職員は利用者の訴えや表情などを見て、さりげなく誘導を行い、トイレで気持ち良く排泄ができるよう支援している。また、ユニット毎に失禁を防ぐ方法を話し合い、トイレ誘導やパッド等の排泄用品を適切に使用することにより、紙パンツから布パンツへ変更した事例もある。事業所では利用者の負担の軽減や自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の体操や散歩、水分補給の実施。希望者にはマイボトルでのお茶の提供。排泄表によりその人に応じた下剤の投与でコントロールしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) プライバシー保護からも一人ずつの入浴となっている。拒否をされる方には家族の協力も得て、促していただいたり、気の合う友と二人での入浴をしていただき、臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 利用者は週2回以上入浴することができる。各ユニットに個別浴槽があり、四方から介助できる構造となっている。浴槽は広く、気の合う利用者が誘いあって一緒に入浴を楽しむこともできる。特殊浴槽の設置もあり、利用者の状態に合わせて安心安全に入浴することができる。入浴を嫌う利用者には、職員を交代したり声かけやタイミング等を工夫したりするなど、気持ち良く入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) いつでも休息できるようにしており、無理をさせないように配慮している。又、室温は管理している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師を中心に服薬時は名前の再確認をし、袋のまま、又は中身だけにし手渡す等服薬確認を行っている。薬の副作用についての把握は十分ではないが努力はしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 昔とったきねづかで包丁は上手に使われるので見守りながら料理の下ごしらえをしてもらったり、繕い物をしていただいている。希望のレクを多く取り入れ活性化につなげている(風船バレー、トランプ、カルタ、歌等)。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 苑外、苑庭散歩を少グループ(2~3人)で行ったり日光浴、たまにはドライブにも出かけ、四季のうつろいを楽しんでいただいている。	
			(外部評価) 日頃から利用者の希望を聞きながら、散歩やドライブに出かけられるよう支援している。家族の協力を得て、外出を楽しむ利用者も多い。各ユニットのレクリエーション担当者を中心に外出行事を計画し、花見やタオル美術館など普段行けないような場所にも出かけられるよう支援している。車いすの利用者も多くいるが、気兼ねなく外出できるように福祉車両も備え、全職員運転することができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理は家族が行っており、必要時は了解を得るようになっている。わずかなお金を持っている利用者もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人から掛けることはないが、掛かってきた電話は取り継ぎ様椅子を用意、ゆっくりお話しができるよう配慮している。ご家族には、その時現状を申し上げている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感のある飾りつけや、換気、臭い、湿気に気を付け掃除(手すり、椅子の消毒)も徹底することによって、衛生的な環境の元で気持ち良く過ごしていただけるよう努めている。	
			(外部評価) 季節の飾りつけをしているリビングや廊下は明るく、広々とゆったりした空間となっている。リビングの大きな窓から、しまなみ海道を一望することができ、自然豊かな景色を楽しむことができる。事業所は清潔で清掃が行き届いており、モップ掛けなど利用者ができることを一緒に手伝っている。利用者同士の人間関係を察知しながら、希望した場所に座りくつろげるよう配慮している。また、庭で野菜や花などを育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 決まった席はなく、ソファやテーブル席で自由に集っていただいている。居室の出入りも自由に行っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 写真を飾ったり、自分の作品を置いたり、椅子やテーブルを持って来られている方もいる。	
			(外部評価) 居室はベッドと整理ダンスが備え付けられており、利用者の思い入れがあるものや使い慣れたものを持ち込めるよう声かけをしている。利用者は家族の写真などを持ち込み、居心地良く過ごせるような空間となっている。利用者の安全を考慮し、画鋸の使用は控えてもらっている。利用者の状態に合わせて、居室を使用しやすいようベッドなどのレイアウトを変更している。また、季節毎に家族の協力を得て衣替えを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下やホールには、安全なため障害物の除去に努め整理整頓し、歩行不安定な利用者が安心して動けるよう配慮している。	